令和８年 11 月４日発行（第 204 号）

普及センターだより 耕耳苑（こうじえん）

いわてアグリベンチャーネットにも掲載中！

宮古農業改良普及センター　TEL：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
岩泉普及サブセンター　TEL：0194-22-3115 FAX：0194-22-2806
いわてアグリベンチャーネット　https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/

野菜生産先進事例調査

近年の高温・少雨による野菜生産への影響に対応するため、先進的な安定生産技術の事例を収集し、宮古地域への導入の可能性を検討することを目的に、宮古農業改良普及センター及び宮古農林振興センターの職員各１名が、９月１日と２日に先進事例調査を行いました。

視察先は、**福島県の田村地域**と**新潟県の妙高地域**です。

福島県の田村地域では、**ソーラー自動かん水システム**を導入している**ピーマン生産者**と**尻腐果の発生が少ない新品種「BSP-101」を栽培**している**ピーマン生産者**の圃場を視察しました。田村地域では、ソーラー自動かん水システムの導入が新規就農者も含めて広く進んでおり、**省力化と適切なかん水による収量確保に役立っている**とのことでした。また、新品種「BSP-101」について、**従来の品種と比較して尻腐果の発生が少なく、果形が良好**で**秀品率が高い**など、今後の普及が期待されていました。

新潟県の妙高地域においても、**ソーラー自動かん水システム**を導入した**ピーマン生産者**の圃場を視察しました。生産者によると、システムの導入により、**少雨の年においても草勢維持や収量確保に効果**が見られたとのことでした。

今回の視察では、近年の高温・少雨に対応した技術や品種が現地で実際に導入され、成果を上げていることを確認できたことから、当地域への導入可能性について検討するうえで大変参考となりました。

福島県	新潟県
 BSP-101	 タンク
 ソーラーパネル	 ソーラーパネル

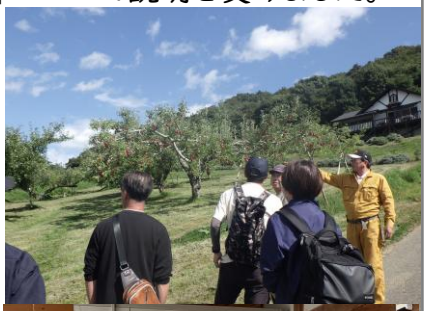
【担当：熊谷】

地域で輝く先進農家の取組を学ぶ
～令和８年度新規就農者向け先進事例視察研修を開催～

宮古地方農業振興協議会では、10 月 1 日、**新規就農者及び就農希望者を対象とした先進事例視察研修**を開催し、5 名の農業者が参加しました。当日は、**盛岡市の松本りんご園**及び**野菜栽培農家である澤口聡氏**の圃場を視察しました。

松本りんご園では、参加者が、園主の松本正勝氏からりんごの品種等の説明を受け、カフェを運営する松本直子氏から、**りんご農園を基盤にカフェや菓子工房を開業した経緯**や、農地内にカフェを整備する際の苦労、食育など**地域とのつながりを大切にした農業経営**について説明を受けました。

澤口聡氏の圃場では、**ハウスきゅうり**を見学し、**炭酸ガス施用**による効果や、**自ら行う生育調査結果をグラフ化して生育状況を確認**する栽培管理手法について説明を受けました。また、**作業小屋へのエアコンやテレビの設置**など、パート職員の労働環境改善の取組や、防虫ネットと天敵の利用による**農薬使用量の削減**についても学びました。





参加者からは、「**農業と飲食業を組み合わせた経営に挑戦したいと思った**」「**生育調査の重要性を再認識した**」などの感想が聞かれました。

普及センターでは今後も宮古地方農業振興協議会と連携し、新規就農者等の経営力向上や技術習得につながる研修の充実に努めていきます。

【担当：澤田（葵）】

岩手県沿岸ホルスタイン共進会

雲一つない晴天の下、10 月 10 日(土)、岩泉町乙茂ふれあい広場において、第62回岩手県沿岸ホルスタイン共進会が開催されました。**昭和 35 年から開催されている**本共進会は、**優良なホルスタインの資質を競い合う場**であるとともに、**酪農技術の研鑽**と**生産者の交流**を深め、**地域酪農の発展**に大きく寄与する意義深い共進会となっています。

当日は、8部門に計 31 頭が出品され、厳正な審査の結果、各部の優等賞は左下のとおりで、各部の優等賞及び優良賞 1 席から、名誉賞・準名誉賞が右下のとおり決定されました。

御出品いただいた皆様、関係者の皆様、大変ありがとうございました。　【担当：西田】

部別	番号	住所	出品者名
(未経産牛)			
第 1 部	104	岩泉町岩泉	山屋奏和
第 2 部	204	岩泉町岩泉	山屋祐太
第 3 部	305	岩泉町岩泉	山屋知里
第 4 部	404	岩泉町小川	上舘勝国
第 5 部	502	岩泉町岩泉	山屋凛和
(経産牛)			
第 6 部	602	岩泉町岩泉	工藤淳平
第 7 部	701	岩泉町岩泉	山屋祈和
第 8 部	802	山田町織笠	福士牧場

未経産牛名誉賞　404 号　準名誉賞　305 号
経産牛名誉賞　602 号　準名誉賞　601 号



第 1 部褒賞授与

活発な意見交換でにぎわう
～令和８年度りんご品種試食会（中生種）を開催～

宮古地方農業振興協議会では、10 月 14 日に「令和8年度りんご品種試食会(中生種)」を開催しました。宮古地域のりんごは、個別販売が大部分なことから、今後の**有利販売に向けた品種選定の参考**とすることを目的に開催したものです。

当日は生産者のほか関係機関を含めて**20 名の参加**がありました。試食には、**生産者が持ち寄った品種・系統**に加え、**当地域で関心の高い品種や高温下でも着色しやすい品種**等、昨年を上回る **23 品種**が出品されました。

会場では、外観や食味等、各品種の特徴を確認しながら**活発な意見交換**が行われました。生産者だけでなく関係機関からも様々な意見が寄せられ、**多様な視点から品種を評価する機会**となりました。



生産者からは、「**今後導入する品種の選択肢として、候補になる品種があった**」、「**他地域と食べ比べてみて、適期収穫の参考になった**」等の声が寄せられました。

今後、**晩生種を対象とした試食会も予定**しています。普及センターでは、関係機関と協働し、りんごの生産振興に向けた支援を継続していきます。

【担当：佐々木】

畑わさび圃場視察研修会を開催しました！

宮古地方農業振興協議会では、9月18日に、管内で畑わさび生産に取り組む新規就農者を対象として、圃場視察研修会を開催しました。

この研修会は、**新規就農者が先輩農業者の圃場を視察**し、意見交換を行うことで、栽培管理の手法や作業計画の立て方について学び、安定した営農の確立につなげることを目的として開催したものです。



当日は新規就農者及び新規就農希望者4名が参加し、先輩農業者3名の圃場を視察しました。

視察先の**吉澤誠氏**からは、**作業計画の立て方や作業の効率化に向けた工夫**について、**林勝美氏**と**中瀬福男氏**からは**栽培管理におけるこだわり**を中心に説明いただき、参加者は圃場や作業場を見学しました。



参加者からは、**除草や追肥のタイミング**、**調製作業の流れ**などについて、**幅広い質問**が挙げられました。また、年間を通じた営農の中で生じた**疑問や課題についても確認**するなど、**活発な意見交換**が行われ、有意義な研修会となりました。

普及センターでは今後も宮古地方農業振興協議会と連携し、新規就農者の技術向上と経営安定に向けた支援を行っていきます。

【担当：昆野】

「銀河のしずく」「白銀のひかり」作付経営体募集中！

県では、現在、令和9年産「**銀河のしずく**」と「**白銀のひかり**」の**作付経営体を募集**しています。
今回、「**白銀のひかり**」の**種子配分量の上限が拡大**され、**3.5～4kg/10a** となりました。
作付けを希望する方は以下の報告先まで、ご連絡ください。

	銀河のしずく	白銀のひかり
受付期間	**令和8年 12 月 11 日(金)17 時まで**	
主な作付要件	○ 作付水田が栽培適地にあること ○ 「銀河のしずく」の販売を行うこと ○ 農産物検査で、**過去2年間の1等米比率の平均が 95%以上**であること	○ 作付水田が栽培適地にあること ○ 「白銀のひかり」の販売を行うこと ○ 農産物検査で、**過去2年間の1等米比率が市町村平均以上**であること
報告先	**○ JAに出荷をされる方** → 新岩手農業協同組合 宮古営農経済センター（TEL:0193-69-3220） **○ 個人販売をされる方** → 宮古市農林水産部農林課（TEL:0193-68-9094（直通）） 山田町農林課（TEL:0193-82-3111（代表）） 岩泉町農林水産課（TEL:0194-22-2111（直通）） 田野畑村産業振興課（TEL:0194-34-2111（直通））	

※1 「**銀河のしずく**」の栽培適地は宮古市、山田町、岩泉町ですが、**地区ごとに栽培の可否が分かれ**ていますので、詳細は JA、各市町村、普及センターにお問い合わせください。
「**白銀のひかり**」の栽培適地は宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村の**全域**です。
※2 募集内容の詳細は県の HP でご覧いただけます。
○ 「銀河のしずく」作付経営体の募集
https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/seisan/1034119.html
○ 「白銀のひかり」作付経営体の募集
https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/nougyou/seisan/1078547.html

【担当：川原田】

秋冬季も！

農薬は適正に使用しましょう

秋冬季に栽培される施設葉菜類において**農薬残留基準の超過事案が発生**しています。
以下の事項に留意して、引き続き**農薬の適正使用の徹底**に努めましょう。

1 **農薬のラベル**（適用作物、使用時期、使用方法等）をよく**確認**し、**使用記録**を**残す**。
2 非結球あぶらな科葉菜類等、作物群で登録のある農薬は、**適用作物の誤認がないよう注意**する。
3 農薬の散布器具、収穫容器、農作業用具等の**洗浄不足がないか点検**する。
4 農薬の飛散や、**前作**で使用した**農薬**の**土壌残留**に十分注意する。
5 農業生産工程管理（**GAP**）の取組により、**食の安全・安心確保**の取組を一層強化する。

【担当：佐々木】

（編集後記）
今月号は、先進地や先輩農家のもとへ訪れたイベントを多めにお送りしました。
さて、気づいたらもう冬になりますね。大分**寒い**です。炬燵とストーブから離れられません。
巷では、既にインフルエンザが流行っていると耳にします。体調には気を付けてお過ごしください。

（澤田(建)）